

## ダイオウ末 Powdered Rhubarb

ダイオウはセンノシドAが主成分であり、第十五改正日本薬局方では、ダイオウ末中のセンノシドAの定量法においてHPLCが使用され、センノシドA、ナリンギンの順に溶出するODSカラムの使用が指定されています。ここでは、L-column2 ODSを用いて試験を行った結果、条件を満たしていました。第十五改正日本薬局方の抽出条件でダイオウから抽出した試験溶液の分析でも良好な分離が得られました。センノシドAには金属配位性があります。カラムの選択には注意が必要です。

Key words : ダイオウ センノシドA 第十五改正日本薬局方  
Column : USP category: L1

### [ Analytical conditions ]

Column : L-column2 ODS (C18, 5  $\mu$ m, 12 nm), 4.6 mm I.D.  $\times$  150 mm L.; Cat. No. 722070  
Eluent : CH<sub>3</sub>COOH in H<sub>2</sub>O (1 in 80) /CH<sub>3</sub>CN (4/1)  
Flow rate : 0.35 mL/min  
Temperature : 40°C  
Detection : UV 340 nm  
Injection volume : 20  $\mu$ L  
System : -

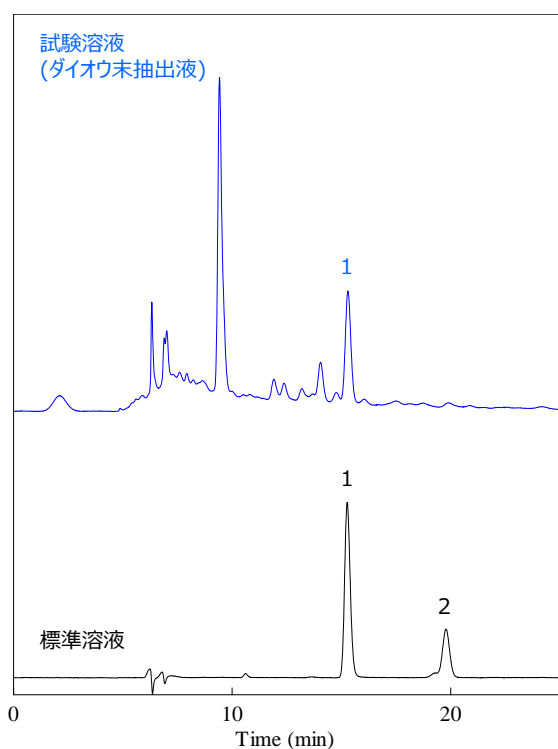
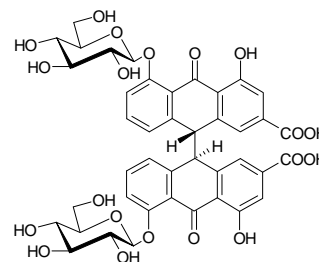


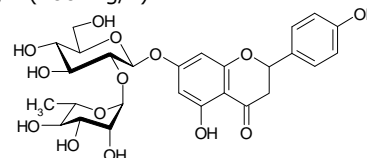
Fig. 定量法 システム適合性(システムのパフォーマンス)

### Sample:

1. Sennoside A (100 mg/L)  
センノシドA



2. Naringin (100 mg/L)  
ナリンギン



Sample solvent: NaHCO<sub>3</sub> in H<sub>2</sub>O (1 in 1000)

	結果	規格値
分離度(1,2)	8	( $\geq$ 3)